

林間保育隨想

前橋幼稚園 園醫 狩野壽平

前橋幼稚園で夏季休暇中の施設として林間保育所を開設したのは、大正十二年で恰も關東大震災直前に相當してゐた。これを全國的に見るならば最も早く着眼した試みとして誇るべきものあるを信じ、徐ろに當時を追懷し今日に及んで見たいと思ふ。創始當時にあつては園當事者たる森島園長を始め一般保姆にしる、末席を汚す吾々にしても、日常の保育とは全然勝手が異つてゐるから、如何なる結果を招來し或は如何なる故障に直面するかといふ杞憂はむしろ恐怖に近いものがあつたと同時に保護者も同一心理の虜となつてゐる爲め出席勧誘にどれ程苦衷を嘗めさせられたかは想像

も半ばに過ぐるものがあつた。又中には林間保育に對して一つの謬見をすら持つものがあつた。夫れといふのが前橋市内の各小學校では時を同じうして林間學校を開設し虚弱兒童の救済にこれ努むることゝなつたので、幼稚園の施設も同一軌上に立つものではないかといふ誤解から引つ込み思案を餘儀なくするものなどがあり、五十名の出席幼児勧誘に大きな煩らひを蒙つたものである。しかし林間保育は一般幼兒の健康を増進すること——それ自體が目的であるといふことが、漸次理解され年を追ふて今日の發達を見るに至つたものである。御承知の如く夏季休暇中の家庭に於ける幼児

は偶々夏季衛生の不注意から疾病に陥り、或は間食が過ぎて運動不足を來し、それが誘因となつて發育を障害する嫌ひがあるので林間保育は其の點に細心の注意を拂ひ、極めて自由に遊戲せしめつゝ、衛生的生活を營ませるといふことを唯一の信条としてゐる。斯の如くして閉鎖した曉に體重を調べて其の意外なる増進ぶりに驚き且つ輕微な疾病は快癒してゐる事實や皮膚の強健など一として驚倒せざるなき幾多の實例を残してゐるので眞に欣びに堪へない又一般家庭では古くから幼兒を裸體にして外光に晒すことは有害であるとまで極言してゐるが炎天下に可憐な五體を晒し、日光を浴さしめ新鮮な空氣を吸收せしめることの効果の甚大なるは今日までの統計がこれを立證してゐる。即ち夏季林間保育に出席した幼兒を調査して見ると、冬季に入つてから休園率の少いことに依つて見ても實績の明らかであることを知悉し得る、又

創始當時は林間保育に不慣れであつた保母諸君も永年の經驗と蘊蓄を傾けてゐるので、今日では吾々の容喙を許さぬまでに向上進歩の跡を示し、生々潑潑たる自然園が描れたことは激賞するに吝かでない、尙ほ設備としても最近では見るべきものが多く就中最初は午睡をうまくやれるか何うかを非常に心配したが毒虫の豫防と風邪の豫防法にも功を奏し、幼兒をして立派に習慣づけるまでに立ち至つた、一面歐風のハンモックを排し日本人は飽くまでも平地に就寝するの適してゐることを確然と知り得ることが出來た。又毒虫に刺されず、風邪に冒されぬ秘訣については相當工風を凝らした結果先づ幼兒に大巾三尺づゝのフランネルを與へ、これを胸部を始め腹部から足部の方まで包んでしまひ、絶對安全を期して就寝させると共に枕を個々別々に新調することは經濟的にすべての點に許されぬ爲め、フランネルの白布で六尺通しの

枕を考案したが、之等も多年の苦心の賜として園長 二次的企てとして市費を投じて、全兒童を前後二班
以下保母諸君の努力を推賞するに恥ぢない。尙ほ第 に分けて收容するの日を鶴首して待つものである。

光輝ある前橋幼稚園夏季林間保育

一 保 護 者

幼児保育上に劃時代的な足跡をしるした前橋市
立幼稚園の第七回夏季林間保育所は各方面の絶大
なる期待裡に去る七月二十五日から八月十三日ま
で二十日間に亘り、豊かな緑の色調に富み、清冽
な小川を配した敷島公園畔、松樹の自然林を樂園
と定めて經營の運びに至つたが、大正十二年以來
の光輝ある歴史と多年の經驗とを保有する園長の
森島順之助氏を始め、野村、茂木、笹原、久保、
千吉良、本間、村岡、矢端、矢間、反町、新山、
田口保姆等の献身的な無給奉仕に依る七十五名の

幼児は心身共により健全に、より優美に誘導され
爲めに市當局と各保護局から多大なる讃辭と萬腔
の感謝とを寄せられ、豫期に反せぬ結果を招來し
て芽出度く帷を下したが、水浴場に砂場にあらゆ
る天與の自然園たる同所に於ける前後二十日間に
亘る保育料は連日の自動車送迎料、間食代（午前
中牛乳、午後適宜の間食）ともで僅かに五圓とい
ふ破格な料室であり、如何に民衆的な夏季施設で
あるかは賞讃に値する。